

横浜市政記者、横浜ラジオ・テレビ記者各位

「京浜の森」づくりに「<sup>たかはら</sup>高原基金の森」の支援が決定しました。  
 ～環境創造局では、今後も企業、市民と協働で「京浜の森」づくりを進めていきます。～

環境創造局では、京浜地区（鶴見区、神奈川区の臨海部）の緑の拡充を図るため、企業、市民との協働により「京浜の森」づくり事業を進めています。  
 この事業について、（財）都市緑化基金が運営する、標記「高原基金の森」支援事業に応募したところ、工業地帯などでの都市緑化推進モデルになるものとの評価を受け、全国で5か所の支援対象の一つに選定されました。  
 これを契機に、環境創造局では、公共と民間のそれぞれの緑化を推進し、「京浜の森」づくりをより一層進めてまいります。

1 支援対象事業の内容

場所	鶴見区大黒町18番1外 (緑道化を検討している貨物線廃線敷の一部 位置図裏面)
面積	10,577㎡のうち3,068㎡(植樹面積2,408㎡)
支援(寄付)金額	3,500万円(18年度:100万円、19年度:3,400万円)
スケジュール (予定)	平成18年度:計画策定 平成19年度:整備
森(緑地)づくり の特色	○京浜地区における緑被率の向上や環境改善への先導となるシンボリックな取り組みとなります。 ○「京浜の森」づくりのモデル地区(「鶴見小野・末広」、「生麦・大黒」、新子安・守屋恵比須、「東神奈川・千若」)をつなぐ重要な緑道(都市公園)の一部を形成します。 ○企業、市民の方々との協働により、地域の憩いと安らぎの場の形成に資する植樹を進めるとともに、管理団体の設立を目指します。

2 支援決定の理由 ((財)都市緑化基金)

単に公共が用意する緑地にとどまらず、「京浜の森」構想に参加・協力して緑化を進める企業を積極的に公表し、緑化の推進を図っていこうとするなど、工業地帯などでの都市緑化推進モデルになるものと大いに期待できる。

3 「高原基金の森」支援事業の概要

高原慶一郎氏(㈱ユニ・チャーム創業者・(財)都市緑化基金会長)からの寄付により、公共団体の特色ある森(緑地)づくりを支援する目的で、平成16年度に創設。

支援対象は、「いましか」「ここしか」「これしか」といった地域での特色のある森(緑地)「3しかの森」です。

